

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日:令和 2年 6月 15 日

作成者:杉田 俱子

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
芦屋市身体障害者福祉協会	
事業名	日時(期間), 場所
最新福祉用具体験会	2019年5月18日(土) 12:30~16:00
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
聴覚障害者用用具として「UD トーク」と「ロジャーペン」を会員自ら紹介。最新の器具を障害者用福祉用具として承認してもらえよう、福祉部の各課長にも見ていただいた。視覚障害者用用具としては「よむべえ」と「オーカム」を紹介。県視協職員による丁寧な説明を受けることができた。“見てみよう、触ってみよう、乗ってみよう”と呼びかけて、種々の車いすを用意して実際に乗ってもらった。介護用品関係の仕事をしている賛助会員に協力してもらった。	(58) 人
	参加者数
	(65) 人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
<ul style="list-style-type: none">・高齢介護課課長より「車いす試乗体験会、面白かったです。特に電動アシスト介助用は手が自然に押したり、ブレーキをかけたりできるのをアシストしてくれて楽でした。貴重な初めての体験をさせてもらいました」・西宮市身体障害者連合会代表から「西宮の会員たちも皆喜んでいました。兵身協の活動「みんなの声かけ運動」に声掛けして10数名の方に入会してもらいました」・県視協担当者からは「皆さんの興味津々の態度に圧倒されました。こんな福祉機器の紹介を市の図書館のようなオープンな所で沢山の方たちを対象に開催できたら」との声も。 <p>※市職員、他市福祉団体、県協議会など、芦屋市の身体障害者団体の枠に留まらないで交流を深め、具体的な福祉機器を知り、体験する機会にすることができた。</p>	
今後の展望(どのように継続, 発展するか)	
福祉機器は絶えず進化しているので、「福祉フェア」などに積極的に参加して情報を取りに行き、それを障害福祉課と共有したいと考えている。	